

ブレイデンスケール

褥瘡のリスクアセスメント

患者氏名：
 評価者氏名：
 評価年月日：

| | | | | | |
|---|---|--|---|--|-------|
| <p>知覚の認知 圧迫による不快感に対して適切に反応できる能力</p> | <p>1. 全く知覚なし 痛みに対する反応（うめく、避ける、つかむ等）なし。この反応は、意識レベルの低下や鎮静による。あるいは、体のおおよそ全体にわたり痛覚の障害がある。</p> | <p>2. 重度の障害あり 痛みにもみ反応する。不快感を伝えるときには、うめくことや身の置き場なく動くことしかできない。あるいは、知覚障害があり、体の1/2以上にわたり痛みや不快感の感じ方が完全ではない。</p> | <p>3. 軽度の障害あり 呼びかけに反応する。しかし、不快感や体位変換のニードを伝えることが、いつもできるとは限らない。あるいは、いくぶん知覚障害があり、四肢の1、2本において痛みや不快感の感じ方が完全ではない部位がある。</p> | <p>4. 障害なし 呼びかけに反応する。知覚欠損はなく、痛みや不快感を訴えることができる。</p> | |
| <p>湿潤 皮膚が湿潤にさらされる程度</p> | <p>1. 常に湿っている 皮膚は汗や尿などのために、ほとんどいつも湿っている。患者を移動したり、体位変換するごとに湿気が認められる。</p> | <p>2. たいてい湿っている 皮膚はいつもではないが、しばしば湿っている。各勤務時間中に少なくとも1回は寝衣寝具を交換しなければならない。</p> | <p>3. 時々湿っている 皮膚は時々湿っている。定期的な交換以外に、1日1回程度、寝衣寝具を追加して交換する必要がある。</p> | <p>4. めったに湿っていない 皮膚は通常乾燥している。定期的に寝衣寝具を交換すればよい。</p> | |
| <p>活動性 行動の範囲</p> | <p>1. 臥床 寝たきりの状態である。</p> | <p>2. 座位可能 ほとんど、または全く歩けない。自力で体重を支えられなかったり、椅子や車椅子に座るときは、介助が必要であったりする。</p> | <p>3. 時々歩行可能 介助の有無にかかわらず、日中時々歩くが、非常に短い距離に限られる。各勤務時間中にほとんどの時間を床上で過ごす。</p> | <p>4. 歩行可能 起きている間は少なくとも1日2回は部屋の外を歩く。そして少なくとも2時間に1回は室内を歩く。</p> | |
| <p>可動性 体位を変えたり整えたりできる能力</p> | <p>1. 全く体動なし 介助なしでは、体幹または四肢を少しも動かさない。</p> | <p>2. 非常に限られる 時々体幹または四肢を少し動かす。しかし、しばしば自力で動かしたり、または有効な（圧迫を除去するような）体動はしない。</p> | <p>3. やや限られる 少しの動きではあるが、しばしば自力で体幹または四肢を動かす。</p> | <p>4. 自由に体動する 介助なしで頻回にかつ適切な（体位を変えるような）体動をする。</p> | |
| <p>栄養状態 普段の食事摂取状況</p> | <p>1. 不良 決して全量摂取しない。めったに出された食事の1/3以上を食べない。蛋白質・乳製品は1日2皿（カップ）分以下の摂取である。水分摂取が不足している。消化態栄養剤（半消化態、経腸栄養剤）の補充はない。あるいは、絶食であったり、透明な流動食（お茶、ジュース等）なら摂取したりする。または、末梢点滴を5日間以上続けている。</p> | <p>2. やや不良 めったに全量摂取しない。普段は出された食事の約1/2しか食べない。蛋白質・乳製品は1日3皿（カップ）分の摂取である。時々消化態栄養剤（半消化態、経腸栄養剤）を摂取することもある。あるいは、流動食や経管栄養を受けているが、その量は1日必要摂取量以下である。</p> | <p>3. 良好 たいていは1日3回以上食事をし、1食につき半分以上は食べる。蛋白質・乳製品を1日4皿（カップ）分摂取する。時々食事を拒否することもあるが、勧めれば通常補食する。あるいは、栄養的におよそ整った経管栄養や高カロリー輸液を受けている。</p> | <p>4. 非常に良好 毎食おおよそ食べる。通常は蛋白質・乳製品を1日4皿（カップ）分以上摂取する。時々間食（おやつ）を食べる。補食する必要はない。</p> | |
| <p>摩擦とずれ</p> | <p>1. 問題あり 移動のためには、中等度から最大限の介助を要する。シーツでこすれず体を動かすことは不可能である。しばしば床上や椅子の上ですり落ち、全面介助で何度も元の位置に戻すことが必要となる。痙攣、拘縮、振戦は持続的に摩擦を引き起こす。</p> | <p>2. 潜在的に問題あり 弱々しく動く。または最小限の介助が必要である。移動時皮膚は、ある程度シーツや椅子、抑制帯、補助具等にこすられている可能性がある。たいたいの時間は、椅子や床上で比較的よい体位を保つことができる。</p> | <p>3. 問題なし 自力で椅子や床上を動き、移動中十分に体を支える筋力を備えている。いつでも、椅子や床上でよい体位を保つことができる。</p> | | |
| | | | | | Total |